「シニアの会」発足　70歳以上13人が忘年会

小林　弘

2015年も押し詰まった12月8日、「70歳以上の校友」が忘年会を開き「今後も毎年集まる」ことを決めました。

会の世話役・石田瑞穂さん（63 年法卒）の案内状には「総会の折、ご年配の先輩諸氏より『今度はヤングパワーに負けず、年寄りが集まって京都昔がたり等どうかね（中略）君、お膳立て頼むよ』と命ぜられ…」と企画のいきさつが述べてあります。

会場は五泉市のガーデンホテル「マリエール」の料亭「安中」の一室。文字通りの OB、OG たち 13 人が集まりました = 写真 =。参加者は新潟市在住者が 7 人と最も多く、遠くは長野市から駆け付けた野治豊さん（66 年経卒）、妙高市や燕市から各 1 人、地元五泉市から 3 人という顔ぶれ。たまたま当日急用ができて、欠席した方々からは「次回は必ず参加したい」との伝言がありました。

なぜ五泉市なのか。マリエールの経営は校友・安中良一さん（66 年文卒）が会長として陣頭指揮を執られています。料理、料金など特別な「ご配慮」はもちろん、会長自らがハンドルを握るマイクロバスで JR 新潟駅南口から我らを輸送してくださいました。

近況を各自が報告しました。短いスピーチの中に 70 有余年の凝縮した人生が含蓄深く語られ、メンバーの多士済々ぶりに「さすが同志社人」とあらためて母校を誇りに思うことができました。安中さんと私は同じ新聞学専攻ですが、もう一人見附市出身で若くして亡くなった小坂井洋吉さんがいます。今回初めてお会いした伊藤慎一さん（65 年商卒）は小坂井さんと同じ北白川の下宿でした。私が訪ねた折に何度か酒を酌み交わした記憶が蘇ってきました。今も「当時の下宿仲間と定期的に集まっている」とは驚きです。

面白かったのは石田瑞穂夫妻の報告です。片や敞子さん（65 年文卒）は「60 年安保反対」のデモに積極的に出かけ、片や夫は学生のバリケード封鎖には批判的、「アンチ安保反対派」であったとのこと。その後、どのような“家庭内闘争”が夫妻間で繰り広げられたかは聞き漏らしましたが。

横野ユミ子さん（64 年女子大学芸卒）の属したサークルは能楽部。月 2 回ほど観世流の先生から指導を受けたそうです。その先生が後に人間国宝となった故片岡幽雪さん。「すごい人から教えていただきました」

私は同志社小劇場で演劇に夢中でした。「真田風雲録」（福田義之原作）を上演した折、同名の映画（萬屋錦之介主演）を撮り終えた東映の加藤泰監督が、わざわざむさ苦しい北寮ボックスまで足を運ばれ、部員たちと何時間も議論に付き合ってくださったことを思い出しました。

横野さんと私のふたつの例は、当時の同志社の学生がいかに地域から温かい処遇を受けていたかの証左でしょう。これを書きながら、今あらためて気づかされています。

「シニアクラブ」は「県支部に屋上屋を架すセクト主義」との批判があるかもしれません。しかし「総会では校友同士じっくり話し合う時間が少ない」（久保田勇雄さん・60 年法卒）との声は切実です。「来年も会えるよう頑張りましょう」（村田稔さん・60 年文卒）と「残り少ない時間」を有意義に過ごしたい思いもこの日の参加者には共通しています。若い校友の諸兄姉からは「年寄りどものわがまま」と思われて、お許し願えれば幸いです。

「次回も同じ 12 月の同じ日、同じ会場で集まろう」との声が多くあり、ほぼ決まりです。「有資格者」は今から予定表に記入をお願いします。（67 年文卒）

◆編集後記

この会報は、当支部の活動ご報告、会員の皆様の随想、新規会員のご紹介などにより、同窓の絆を深める目的で作成しています。お陰様を持ちまして発行 9 回を重ねることができました。玉稿をお寄せいただいた方々に厚く御礼申し上げます。次回は 10 周年記念号です。より親しまれる会報になるよう、アイディア提供や寄稿など積極的なご協力をお願いいたします。ご協力いただける方は事務局までご一報ください。

これを書いている今日も熊本地震の報道が続いています。平成 16 年の中越地震と同じような直下型地震とのことです。一日も早い被災地の復旧・復興と被災された方々の生活再建を祈るばかりです。（村木）

同志社 新潟
DOSHISHA NIIGATA

同志社校友会新潟県支部　同志社同窓会新潟支部（女子部）
発行人　河端信雄・篠田孝子
事務局　新潟プレハブ工業(株)内　市川清
〒950－0911　新潟市中央区笹口２－29　TEL 025(247)7117
Eメール：info@niigata.doshisha-alumni.org

同志社校友会・同窓会新潟県支部の 2015 年度総会（6 月 20 日 新潟市・新潟グランドホテル）

2015年度新潟県支部合同総会を開催

同志社大学校友会新潟県支部と同志社女子大学同窓会新潟支部の 2015 年度合同総会が 6 月 20 日（土）新潟市の信濃川河畔にある新潟グランドホテルで開催された。総会には大学から村田晃嗣学長、女子大からは加賀裕郎学長、そして校友会と同窓会からはそれぞれ中村友一副会長と玉村三保子会長を来賓としてお迎えし、初参加者 3 名を含む総数 57 名の参加を得て大きな盛り上がりを見せた。

今年は総会に先立ち、村田学長から「グローバル時代の教育と地域　京－越後　学びのきずな」と題して講演していただいた。会場には校友・同窓 64 名を含む一般県民、市民 140 名が聴講された。この中で村田学長は、今年創立 140 周年を迎える同志社大学は新島襄の教育理念の下で、社会のグローバル化に有為な人物の育成に一貫して取り組んでいることなどを熱く語られた。

休憩後の総会では校友会の河端信雄支部長と同窓会の篠田孝子支部長の挨拶の後、会計報告等の議事があり、続いて来賓の村田晃嗣学長と加賀裕郎学長から挨拶をいただいた。この中で加賀学長は、女子大には今春、六つ目の学部となる看護学部が開設され、6 学部 11 学科を擁する女子総合大学として結実したこと。8 月には食物栄養科学科の拠点となる新しい新心館が完成することなどを話された。

引き続いての懇親会では校友会の中村副会長が挨拶に立ち、一昨日開催された今年の拡大評議員会では各支部のホームページの充実や活動への支援、海外留学生を含む在学生への奨学金の給付、第 3 回校友会大懇親会を 11 月 7 日に開催することが決まったこと、さらには海外支部とのネットワークを拡げ、大学と連携して「同志社」のグローバル化を進めていきたいと話された。同窓会の玉村会長は、校友会と同窓会は歴史も異なるが、同じ新島精神を学んだ者として、今後は新潟支部のように校友会との連携活動を全国に拡げていきたいと挨拶された。

続く懇親会では各テーブルで学生時代や京都の思い出話を肴に大きな盛り上がりを見せ、途中、初めての参加者 3 人が自己紹介に立った後も宴は続いた。

最後は応援団 OB 相田先輩のリードする恒例の同志社チアーを全員で唱和し今年度の合同総会を終えた。

千年の都の魅力は尽きません

同志社校友会　新潟県支部長　河端　信雄

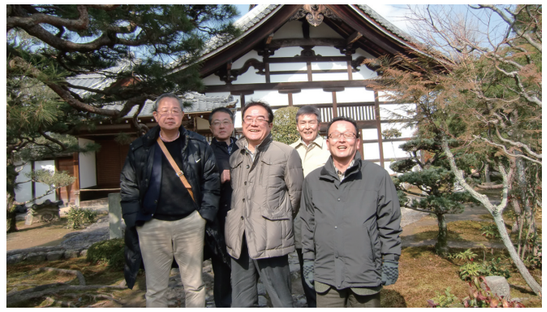
支部長に就任しまして 7 年が経ちました。支部役員の皆様のおかげを持ちまして、なんとか務めさせていただいております。毎年の会報の作成、ホームページの立ち上げや、京都の大懇親会出席など、忙しい中、各役員の皆様の活躍に頭が下がる思いです。総会も 60 名近くの出席をいただけるようになりました。また若返りのために青年部も設けて活動してもらっております。シニアの会も昨年開催されました。若手も、シニアも、大いに支部活性化に向けてがんばりましょう。

校友会本部にも、近年支部活性化のためにさまざまな助力をいただき、特に資金的支援は大変助かっております。支部交付金のほか、年 3 ～ 4 回開催される支部長会議の旅費も支給していただいております。

さて支部長会議の翌日は、一日京都のあちこちを廻っております。観光地は鞍馬山まで外国人で溢れておりますので、あまり人が行かないところを重点的に廻っております。歴史が好きなので跡地廻りが中心です。

平安京の大内裏、羅城門跡、清盛の六波羅探題跡、室町幕府の花の御所跡、秀吉の聚楽第などほとんど何もないが想像をめぐらしてみるのもまた良いものです。平安京造営の基準点となった船岡山は、保元の乱で負けた源為義処刑場所であり、信長を祀った建勲神社もあります。冥界に入れるとされる井戸がある六道珍皇寺。秀吉が築いた平安京をぐるりと囲んだ土塁跡は北野天満宮で見られます。秀吉の朝鮮出兵のときに、首の代わりに持ち帰った多数の耳や鼻を祀った耳塚は、三十三間堂近くにあります。興味のない方にはまったくつまらないところばかりではありますが、京都にはまだまだ行っていないところが山ほどあり、千年の都の魅力は尽きません。1 年くらい住んで、見て廻りたい気持ちです。

最後に 7 月 8 日の支部総会で、皆様とお会いできることを楽しみにしております。（1972 年　商学部卒）



同志社同窓会全国支部長会に参加して

同志社同窓会　新潟支部長　篠田　孝子

3 年に一度開催される全国支部長会が昨年 7 月にあり、久しぶりに京都を訪れてきました。

4 年間の学生時代、何かにつけてお世話になった栄光館が集合場所でした。その変わらぬ荘厳な佇まい、とても懐かしかったです。全国 66 支部の内、44 支部 55 名の支部長が出席しての支部長会、会場は同志社創立 125 周年記念事業の一環として建設された、同志社びわこリトリートセンターという施設でした。

礼拝堂、会議室、宿泊施設、屋内運動施設などがあり、各施設の名称はすべて新島精神に立ち返り付けられていて、その心が和む雰囲気がとても気に入りました。会議では、120 年の歴史があり会員数も多い大きな支部から、発足間もない会員数も少ない小さな支部まで、それぞれの活動状況が報告されました。

小グループに分かれてからは、各々問題点を提起し活発な意見交換の場となり、支部長という同じ立場にあっても多種多様の考え方があり、とても勉強になりました。それは新潟のように小さな支部は小さいなりに、会員が少なければ少ないなりにやり方を考えて、会員同志の交わりを大切に活動すれば良いということです。

今年 7 月は同窓会の総会を開催し、その後校友会と合同で懇親会をします。是非とも参加してください。これからも力を合わせて同窓会新潟支部を盛り上げていきましょう。（1971 年　学芸学部英文学科卒）

ゆかりの地で同志社フェア

編集委員　荒沢　哲郎

昨年 8 月 30 日に「同志社フェア in 安中」が新島襄ゆかりの群馬県安中市で開催されました。これは同志社創立 140 周年を記念して大学と校友会が主催し、学校法人新島学園の協力を得て地域との交流イベントとして開催したもので、当日は関東・甲信越エリアの交友や地域住民など 600 人余りが集まり、青年新島襄の抱いた夢とその足跡に思いを馳せました。式典では大学の村田晃嗣学長と安中市の茂木英子市長、新島学園中学・高校の岩間秀彬校長があいさつし、それぞれ大学と市や両校の交流が一層深まることに期待を寄せられました。

続いて村田学長が「バック・トゥ・ザ・フューチャー 2015」と題して記念講演し、30 年前に 2015 年の未来を描いた映画を題材に、当時の未来像と現在を比較しながら、「誰も未来予測はできないが、各人が抱く夢の実現に向けて、今やれることに全力を傾けるべき」と熱弁を振るわれました。続く音楽会では、新島学園聖歌隊と同志社グリークラブがそれぞれの校歌やミサ曲、クリスマスソングを歌い、最後は全員で「ハレルヤコーラス」を新島学園礼拝堂の中に響かせました。その後は場所を変えて交流レセプションが開催され、校友会群馬県支部心づくしのおもてなしで参加者の間に新しい交流の輪が広がっていきました。

当日はフェアに先立ち、城下の佇まいを残す安中の街を巡ってみました。旧中山道の宿場町である安中は高台の城址を中心に街が形成され、本陣跡や郡奉行屋敷、武家長屋などが残るほか、新島襄ゆかりの旧宅、石造りの安中教会なども見学することができます。また車で足を伸ばすと世界遺産の「富岡製糸場」や旧鉄路の難所を散策できる「碓氷峠鉄道文化むら」なども近いので、一度訪ねてみてはいかがでしょう。（1972 年　法学部法律学科卒）

平成27年度　会計報告　（平成27年4月1日～平成28年3月31日）　単位：円

収入の部	金額	支出の部	金額
		会報	
前年度繰越金	612,576	印刷	21,600
		デザイン	5,000
		事務	
年会費	192,000	振込手数料	10,544
		総会・交流会案内送付	50,626
		雑費	14,580
総会		総会	
総会・懇親会参加費	250,000	後援会	231,800
お祝い金	70,000	懇親会	312,540
		来賓謝礼	19,440
助成金		その他活動	
支部活動助成金	10,000	校友会安中交流会参加	21,308
〃	328,920	校友会京都大懇親会参加	88,302
		シニア懇親会	10,000
		同窓会アンケート	7,488
		会議	
		幹事会	40,000
		会報編集会議	6,600
		慶弔	
			0
		次年度繰越金	623,668
合計	1,463,496	合計	1,463,496

＊2016年度総会にて報告予定

はじめまして

西澤隆博さん　N ネット　代表
（1971 年　法学部　法律学科卒）
卒業して 3 年ほど県外で勤めた後、74 年に長岡に戻り 42 年になります。新潟では同窓にほぼ会う機会もなく寂しい思いをしていました。新しい出会いがあることを楽しみにしております。

近藤繁樹さん　JR 新潟鉄道サービス
（1976 年　経済学部卒）
卒業後 40 年、国鉄～ JR と勤務し、退職後現在は子会社に勤務しております。京都はやはり懐かしく、昨年久しぶりに同志社（今出川校舎）にも訪れましたが、あまりの変貌ぶりに驚きました。

稲川一男さん　丸稲興業　代表
（1977 年　経済学部卒）
現在長岡に住んでおります。還暦を過ぎ、青春時代を送った京都が無性に恋しく思っていたところ、校友会新潟県支部のお誘いをいただきました。同世代の校友と会えるのを楽しみにしています。

山田直人さん　グンゼ　新潟事務所
マネージャー（1984 年　経済学部卒）
昨年 10 月に新潟に単身赴任で参りました。体育会でサッカーをやっていました。京都出身で、社会に出てからはほぼ大阪勤務でした。妻、息子、娘、家族全員が同窓の同志社大好き人間です。

石井玲子さん　新潟県立大学
子ども学科准教授・ピアニスト
（1992 年　女子大　音楽学科卒）
高槻市出身です。同女～京都芸大・院修了、渡米し博士号を取得後、仕事で新潟へ。村上市に移住し現在 3 児の母です。県内外でコンサートを行い、ナマ＋トク（UX）に毎週水曜出演中です。

森恭子さん
（2000 年　女子大　音楽学科卒）
旧姓福田です。中学から 10 年間同志社女子で過ごしました。6 年前に新潟に嫁ぎ、現在は仕事と育児に追われる毎日です。同窓会のお仲間に入れていただけたことを嬉しく思っています。

平野佳恵さん　声楽家
（2001 年　女子大　音楽学科卒）
大学卒業後は京都市立芸術大学の大学院、その後渡独しヒルデスハイム国立歌劇場のオペラ合唱正団員の職に就きました。2014 年夏に完全帰国し新潟で歌曲デュオを組んでいます。

陸歎（くがたに）直志さん
三井住友海上火災保険　新潟支店・新潟支社
（2004 年　法学部法律学科卒）
昨年度新潟に赴任してまいりました。一昨年前まで 3 年間官公庁に出向しており、また新潟は初めての地で分からないことも多く、失敗の連続です。新潟での人脈を広げられたら幸甚です。

鈴木寛子さん　公務員
（2007 年　文学部英文学科卒）
千葉県出身、奈良県育ち。同志社大学卒業後、東京で 4 年間働いた後に、念願叶って母の故郷・新潟へ転職、移住して 6 年目になります。年齢・性別問わず多くの方と交流できたら嬉しいです。